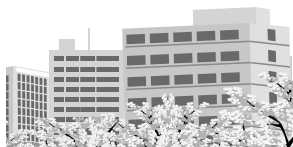


会員の広場



いい加減さと厳しさが共存するアメリカ

小長井 孝（東京）

今から20年も昔のことである。社命によりアメリカ（CA州）に3年ほど駐在した。日本との違いに戸惑い、驚き、立腹、とさまざまなことに遭遇した。昨今の複雑で理不尽な日米関係の報道に接するたびに、当時のことが思い出される。ごく一面的ではあるが日本とアメリカの違いに関するささやかな体験について記してみる。

(1) オフィス移転で、引越し業者に打合せの約束をすっぽかされ待ちぼうけをくらった。抗議するも謝罪はない。理由を聞いてみたら、後から重要な案件が生じたのでそれを優先したまでだと。思わず「Liar（嘘つき）」と言ったら、相手は激怒。「嘘つき」を口にするのはご法度らしい。

(2) 衛星の軌道変更のためアンテナの向き調整が必要となり、CA TV局に作業を電話で依頼した。一日中待つも作業員は来なかった。休み明けに問い正したら応答者が作業予定を調べてくれたがその返答は、予定にないので行くわけがない、であった。まったく予想外の説明であきれた。

(3) 現法従業員給料の計算・口座振込みは、専用の会社に委託。ある月だが予定の数日後に振り込まれた。後日文書で遅れた理由と再発防止策の回答を求めたところ、振込みが無かったと気がついたら直ちに連絡すべきで、むしろその対応をしな

かったことが問題だと聞き直られ、謝罪はおろか遅延と再発防止の説明は一切なかった。

(4) 社有車のタイヤは盗難防止のため特殊なナットで取り付けられ、専用アダプタがないとタイヤを外せない。ある時アダプタを紛失しフォードのディーラーから純正品を取寄せた。しばらくして走行中タイヤがパンクしたので、取寄せた純正アダプタを用いてタイヤを外そうとしたが、サイズが合わず役に立たなかった。

(5) 日本からの本社社長の出向かえでサンノゼ国際空港内有料駐車場に車を停めようとしたが空きが無く、床にLIMOと書かれた場所に停めた。戻ったら駐車違反のチケットがワイパーに挟んであった。営業用リムジンカー専用スペースで、一般車の停車は「駐車違反」と初めて知った。

(6) 日本人駐在者のCA州運転免許証の有効期間が1年と短く更新が煩わしかった。北加日本商工会

議所の長年の努力で期間が伸び、有効期限が延長された免許証が送られてきた。現行免許証の回収はなく、結果として免許証が2枚になった。

(7) ホームセンターに不良品を返品した時のこと、店の指示により不良品は自分で棚に置き良品と交換、不良品はそのまま売り場の棚に置いた。これは別のお客が不良品を買う嵌めになる。

全く予想だになかった2001・9・11の世界貿易センタービル崩落のテロ事件。米国政府は全米を飛行中のすべての航空機を最寄りの空港に緊急着陸させた。東海岸での大事件だったが、24時間稼働の不夜城のサンノゼ空港は真つ暗闇となり、静寂で不気味さを感じた。ありえないことが起きこれら一体どうなるのか、と言うに言われぬ不安にかられた。そして全ての日常が大きく変貌した。だが依然として今でもアメリカには「いい加減さと厳しさが共存」しているに違いない。